

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0773100508		
法人名	医療法人 健山会		
事業所名	船引クリニック グループホームすみれA棟		
所在地	福島県田村市船引町船引字砂子田1-1,1-2		
自己評価作成日	平成30年2月1日	評価結果市町村受理日	平成30年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成30年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○職員と利用者との信頼関係が厚い。</p> <p>○医療機関との連携を取れているので、身体の変化にすぐ対応し安心できる環境を整えている。</p> <p>○以前よりADL低下の方が利用されているが、地域の行事・外出や利用者の希望により外食や出前等の機会をつくり、本人の意思を尊重した支援をしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1. 日常ケアの中で、利用者とのコミュニケーションを十分行い、趣味活動や利用者の得意分野を活かして一人ひとりの能力が発揮できるよう全職員で取り組んでいる。</p> <p>2. 医療法人が運営主体であり、医師、看護師の24時間オンコール体制、疾病の早期対応、食中毒、感染症の勉強会を行い、手指の消毒、共有スペース、居室の消毒を徹底している。</p> <p>3. 職員の資質向上のため、資格取得を推奨し、経済的支援を行うとともに毎月職員が講師となり内部研修会を実施し、外部研修会に積極的に参加させている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(A棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示しているもの、各個人で持参している携帯用のもので再確認し、業務へ入るよう心掛けている。	理念を玄関や事務所に掲示し、全職員のネームプレート裏に記すとともに各種会議で実践につなげるよう話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りへの参加や、共同浴場を利用し、地域の人と交流する場を増やしている。又利用者と一緒に近隣のゴミ拾いの活動を行っている。	地域の回覧板を閲覧したり、祭り御輿が事業所を訪問したり、地域美化活動で近隣のごみ拾いをしている。また、事業所駐車場を地域住民に開放したり、陶芸、踊り、歌のボランティアや保育所との交流があり地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に区長さんや民生委員さんに参加して頂き、実際に職員が行っている支援方法など報告し認知症の理解や相談の窓口になって頂けるよう話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催している。会議では事業所を積極的に公開しており、メンバーの方々からは地域の情報や提言などがあり出された提言などは運営やサービスの向上に活かしている。	定期的開催し、事業所広報、行事、利用者状況、事故・ヒヤリハット、評価結果等を報告し、事業所の運営状況を理解してもらい、地域の情報や意見等を話し合い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報の交換や不明な点などに関しては、市役所へ連絡をとり確認をしている。	関係法規の指導を受けたり、介護認定変更の協議、事故報告等、取組み状況を伝え協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修に参加したり、スタッフ会議などで話し合いの場を設けたり、身体拘束禁止の認識を高めるよう努力している。玄関の施錠はしていない。	身体拘束排除のマニュアルにより、勉強会を開催している。玄関の日中の施錠を含め、拘束はしていない。また、家族とリスクについて早い段階から情報を共有するよう話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や日頃の連絡等で虐待防止を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用できるよう研修や勉強会の場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様またはご家族様へ契約、解約等の説明を行い不明な点がある場合は十分説明し理解をいただけるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望がある場合には、すぐに話し合い、できるだけ早く解決できるよう努めている。面会時にはその都度声かけし話を聞くようにしている。又、運営推進会議でも話し合いができるようにしている。	日常のケアや家族面会時等に利用者、家族の意見要望を把握し、思いに寄り添った支援をしており、家族からの信頼も高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	シフト制の為うまく伝わらない時もあるので職員会議、毎日の申し送りで意見・要望を聞き、反映できるようにしている。	管理者は職員と随時面談をしており、毎日の申し送りや会議で気軽に運営に関する意見や提案を出せるよう配慮している。法人は職員の資質向上のため研修、資格取得の支援に積極的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内研修の機会を持ち向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量に合わせながら研修に参加し力を出せるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会等開催の会議、勉強会に参加する機会を設け、質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情や言動を注意深く観察し本人の訴えに耳を傾け寄り添った介護に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に今現在の状況を話し家族から不安なこと要望等を聞き関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時に今現在の状況を話し家族から不安なこと要望等を聞き関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などを一緒に行いお礼の声掛けを心がけている。一対一の入浴介助での会話も大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等への参加を促したり面会の機会を多く持って頂けるよう声掛けを行っている。面会時にホームでの生活状況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出等の要望もあるので、体調・精神面に配慮しながら外出できるようにしている。ある利用者は以前から利用している美容室の方に協力して頂き関係を築いている。友人等の訪問があり継続できるよう支援している。敷地の各事業所との交流を通して馴染みの知人と交流がある。	理・美容院は希望により、訪問や地域の業者を利用することができる。以前の知り合いの家に出かけたり、家族と外出、外食、買い物等を楽しみ、これまでの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で支えあえるように座席の工夫や気の合うメンバーでの外出等で気分転換を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に退居後も気軽に立ち寄って頂けるよう話している。また退居後もご家族に会ったときはお話をしご家族との交流に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを多く持ち本人の希望・思いを取り入れ対応している。また意見を出し合い本人の意見に立って話しあって取り組んでいる。	職員は一人ひとりの思いを把握し、それに寄り添った支援をするため、本人、家族から情報を得ている。把握が困難な場合もできるだけ、本人本位な支援になるよう職員間や家族、関係者と話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時に本人またはご家族に生活歴などを伺うように努め、本人やご家族との信頼関係を築きながら今までの暮らし、出来事を伺い自分らしく暮らせる手がかりを見つけることを積み重ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らしに添って出来ること、出来ないこと、わかること、わからないことを全職員が把握して暮らしの中で発見していくことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族に思いや希望を聞き、その人らしい生活を続けるためにどうしたらよいか職員間で意見を出し合い、話しあった結果をもとに作成アセスメント、モニタリングを繰り返し期間ごとに要望の変化に応じて行っている。	以前の生活状況や本人、家族の思い、医師等の意見を踏まえ介護計画を作成し、利用1ヶ月間の生活状況からよりよく暮らすための課題を検討し、見直している。その後も期間毎に繰り返しアセスメントやモニタリングを行い、介護計画を作成している。生活状況に変化がある場合はその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づき・工夫を記録に記入し申し送り帳を使用して職員間で密な情報を共有できるようにしている。記録をもとに介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時できる範囲で利用者の生活歴などを伺うようにしている。またその時々利用者のニーズに合わせて本人に合わせた支援が提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に区長さんや民生委員さんや地域包括支援センター職員等に参加して頂き情報交換している。また新聞、広報等により情報を得て可能な限り参加できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	耳鼻科や歯科受診はご家族の付き添いにて対応している。また通院等の際の状況報告を記録をご家族に持参していただき受診結果の情報を共有しご家族と密に話し合っている。	本人・家族の希望により同法人で運営している併設医療機関をかかりつけ医としている。訪問診療時は、生活及び身体状況を記録した「生活アセスメントケース記録」を医師に情報伝達し、受診記録を職員間で情報共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。受診結果については、家族に電話連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人ひとりの健康状態を把握し特変時は看護師や訪問看護師に報告し指示を適切に対応するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際に安心して治療できるようにご家族や相談室との情報交換に努めている。またいつも受け入れができるようベッドや備品の準備を行い体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、ご家族から終末期に関して希望や思いを確認し、医療やご家族・事業所で話し合い、方針の統一を図っている。	入居時に「重度化した場合における(看取り)指針」について利用者及び家族に説明し同意を得ている。終末期の対応に関するカンファレンスを開催し、関係者で方針を共有しながら対応している。内部研修及び実務を通じて、職員全員が、看取り介護に関する十分な知識・スキルを有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応・緊急時に対応できるようマニュアルを作成し勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年に2回実施しており専門業者立合いの元、火災報知器使用方法や各職員ごと利用者の誘導方法を確認実施している。備蓄品の整備している。 スプリンクラーの止め方など実施している。	夜間の火災を想定した防災訓練を年2回実施しているが、地震・水害等の災害を想定した訓練は実施されていない。災害時に必要な飲料水や食糧の備蓄を行っている。	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できるよう、数多くの訓練を実施してほしい。また、法人・事業所だけの訓練だけではなく、地域住民の参加、協力を得ながらの訓練の実現に向け、検討を進めてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格やこだわりを尊重しその人に合わせた声掛けや対応を行っている。 居室に入室する場合はノックしている。	「接遇」や「プライバシー保護」に関する内部研修を通じて、職員の接遇スキルの向上を図り、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した支援に努めている。また、スピーチロックがあった際は、職員相互に注意を促したり、管理者が個別に指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の考えを押し付けず利用者のペースに合わせて利用者の思いや希望に耳を傾けるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調等に注意しながら本人の希望に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容や床屋へ職員と外出対応している。朝の身だしなみには声掛けし鏡を見てもらっている。入浴時は職員と一緒に服を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理の下準備や片づけを利用者の協力を得て行っている。行事食や希望に応じ外出や出前も行っている。	利用者の意向や、季節行事、利用者の誕生日などを考慮しながら、日々献立を策定し、利用者にごしらせを手伝ってもらい、一緒に食卓を囲みながら食事を楽しんでいる。事業所内での調理だけではなく、出前を依頼する場合もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は本人に合ったものを準備し脱水や便秘にならないよう栄養バランスを考え支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けし本人に合わせて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が維持できるよう支援している。本人に合わせたパット・リハビリパンツを準備し自尊心を傷つけない様に配慮している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、適宜時間を見ながら声かけを工夫してトイレで排泄できるよう支援している。排泄の失敗時には、利用者の居室やトイレに誘導し、プライドを損ねないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消のため、下剤だけに頼らず食べ物・飲み物で工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望である曜日や時間帯などの状況に合わせて入浴して頂いている。	入浴は、利用者の希望と体調を見計らいながら、週2回以上入浴できるよう支援している。また、ゆずや入浴剤等を使用したり、利用者との会話を通して入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やその時々状況に合わせて湯たんぽやエアコンで安眠できるよう環境づくりを行っている。トイレと居室の温度差管理にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は、作用・副作用など注意する事を医師・専門の方に聞き、申し送り・会議等で確認している。又、日付・名前の確認をし、誤薬のないように対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴などを知ることで本人の力が出せるように支援している。植木の水やり、家事の手伝いなど役割をもって生活して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節良い時期は施設周辺の散歩に出かけたり近くの店(理容)へ出かけたり職員の付き添いのもと外食の機会を設けている。	事業所周辺の散歩や、ゴミ収集場へのゴミ捨てなど、日常的な外出支援に努めている。また、事業所の行事として花見や近隣の公園へのドライブなど、利用者全員と一緒に外出している。家族の協力を得ながら、外食やドライブ、墓参りなどの機会も作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・ご家族の希望により外出した時に支払いの機会を持てるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	静かな場所で周囲を気にせず話ができるような声掛け環境づくりをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事中や夜間のテレビの音量に気を付けている。季節の飾りつけを工夫している。	共用空間には、ソファやマッサージチェアが設置され、日々の清掃や温度・湿度管理を適切に行っている。季節を感じさせる飾り付けを利用者と一緒に行い、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やホールの奥に椅子を置いたり自分の好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	使い慣れたものや馴染みのもの、ご家族の写真などを持ってきていただいている。またホールでの思い出も大切に頂くために自分で作った作品や写真も飾っている。	居室には、記念写真、家具等、馴染みの物の他、利用者の希望により冷蔵庫やテレビ等を持ち込んでもらい、その人らしく暮らせる部屋となるよう配慮している。日々居室の掃除を行い、気持ちよく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには目印をつけ居室前には名前プレートを飾っている。		